

発見！虫のふしぎ

山鹿市立平小城小学校 3年生全員

1 研究の目的

理科で、虫のすみかについて学習したときに、他の虫とちがひ、アリはいろいろな場所にいることがわかった。そこで、アリには決まったすみかやすきなものはあるのか、実験して調べた。

2 研究の方法

- (1) 平小城小のどこにどんな虫がいて、アリはどこに多くいるか、数える。(10 分間)
- (2) アリのすきな場所、色、食べ物を、アリの動いた数を数えて調べる。
- (3) アリのきれいな場所を、アリの動き方と動くスピードをはかって調べる。
- (4) アリはどうやって進むか、迷路や、アリの通った道に線を付けて調べる。
- (5) アリは、アリの巣をどうやって作るのか、観察して調べる。

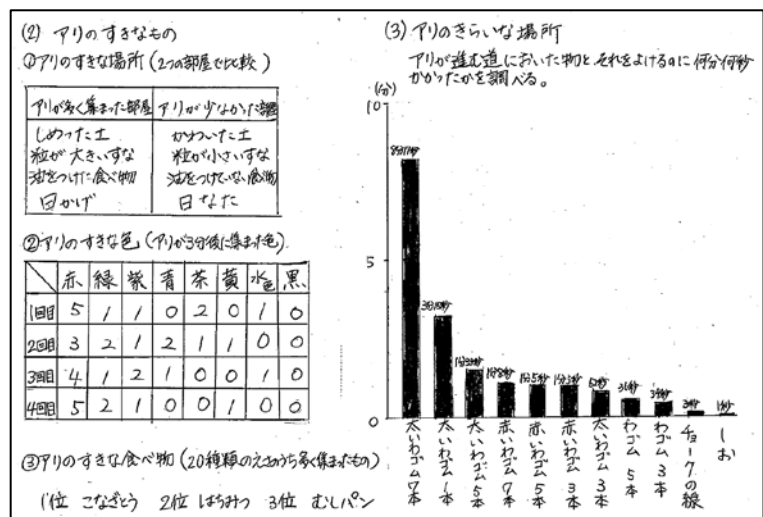
3 研究の結果と考察

- ・平小城小には大きく分けて2種類のアリがいて、大きいア리를クロヤマアリ、小さいア리를トビイロケアリといい、種類によって住んでいる場所、進み方がちがうことが分かった。
- ・クロヤマアリとトビイロケアリについては、次のことが分かった。

ア クロヤマアリは、花だん、運動場の南側など砂粒の大きい、乾燥したところに多く住んでいて、トビイロケアリは、用務員室の裏や、山や木の下など、砂粒の小さいしめったところに多く住んでいることが分かった。(実験1)

イ クロヤマアリは、透明のシートの上においてもまっすぐ進み、すぐに脱出することができたが、トビイロケアリは、ぐるぐると回ったり、途中、動かなくなったりして、進み方に違いが見られた。しかし、触覚を使って道を探すのは双方に共通していた。(実験4)

ウ アリの巣を作るとき、クロヤマアリは大きな砂粒を口のようなものではさんで移動させ、トビイロケアリは小さい砂粒を触覚ではさんで移動させ、トビイロケアリは小さい砂粒を触覚ではさんで移動させ、穴を作っていた。(実験5)



4 研究のまとめと感想

- (1) アリは種類によって、好きな場所、生活しやすい場所が違うことがわかった。どこにでもいると思っていたアリにも、決まったすみかがあることを知ってびっくりした。
- (2) アリは甘いものなら何でも好きだと思っていたけど、粉砂糖やむしパンのかけらなど、運びやすいものを選んで運ぶことが分かった。角砂糖は運ばなかったが、水でぬらすと運んでいた。
- (3) アリにとって触覚は、えさや砂を運ぶ大切な役割をしていることが分かった。